令和7年度　香南市保育所評価報告書

香我美おれんじ保育所

経営理念	【保育目標】　すくすく　おれんじ　げんきなこ 【経営目標】　『一人一人の子どもを大切にし、保護者に信頼され、地域に愛される保育所をめざす』 ＜子ども像＞　○元気に遊べる子ども　○自分の思いをすなおに出せる子ども　○優しく心豊かな子ども　○意欲のある子ども ＜保育所像＞　○子どもの笑顔が輝く保育所　○子どもの育ちを支える保育所　○保護者や地域から信頼される保育所　○幼稚園と連携して子どもの育ちを支える保育所 ＜保育士像＞　○子どもとの信頼関係を大切にする保育士　○意欲を育む環境を考える保育士　○チームワークを大切にする保育士　○保護者とより良い協力関係を築く保育士 ○専門性の向上に努める保育士

	中期経営目標	重点目標	評価項目	自己評価 達成状況	評価	保育所関係者評価 考察	評価	改善策等
保育・教育活動の充実	保育指針に沿って、乳幼児の発達に即した保育活動を展開し、感性が育つための環境構成を探求する。	保育指針を生かした保育の見直し改善と環境構成	①指導計画作成・評価・改善 ②子どもがやってみたいと思える環境構成 ③研修や保育者コンサルテーションに参加し子どもを理解する	・指導計画が新様式になり戸惑いもあったが、より一人一人の子どもの様子をよく見て、子ども理解をしてきた。保育指針を見ながら職員同士で話し合い、ねらいや内容を立ててきた。反省・評価には、ねらいと内容、環境構成、保育者の援助は適切であったかなど意識して振り返り記入をするようになってきた。 ・「個別の指導計画だが、同じねらいや内容になっていた」「指導計画作成が遅くなってしまった時があった」いうこともあった。 ・成果は、振り返りと計画ができ、保育に生かした職員は60%以上と評価した。 ・子どもの興味関心や子どもの姿から発達を捉え、発達に合ったおもちゃの準備や環境について共有を行った。研修や部会で学んだ事を取り入れたり、自然物やこの時期しか体験できないものも意識して環境を整えてきた。 一方で、園庭の環境が固定遊具と砂場のみの環境のクラスが見られた。個人差もあるので子どもが遊びを選択できる環境構成が必要である。 ・成果は、③保育者が提示した道具などを使って自分がイメージしたものを作っている。乳児は、探索活動が活発になり、遊びが繰り広げられるようになった。 ＜保護者による保育所評価アンケートより＞ 保育室や園内の環境は、お子さんの興味や関心を広げられるような工夫がされていると感じますか。 ⇒「そう思う」94.3% 「ややそう思う」5.7%の評価だった。 ・保育者コンサルテーション事業を受け、年間9回15名を対象に実施し、15名の職員が参加した。essenceQシートを用いて12の視点から子どもの姿を捉え、発達や特性の理解を深めていった。同時に昨年未受講だった9名がティーチャーズトレーニングを受講している。 子どもを観る視野が広がり、CCQ(おだやかに・子どもに近づいて・声のトーンを抑えて静かに)を意識してきた。 コンサルテーションの学びは共有しているが、個人差があると感じた。 ・成果は、子どもの発達の特性や課題を知り、生活の流れを可視化したり、環境を工夫したり、CCQで声かけをするようになった職員は60%以上となった。	B	保育指針の方針は担当制をおしている。ゆるやかな担当制を今後も大切に継続してほしい。 保護者と繋がっていくことが大切である。職員がコミュニケーションをとりながら、信頼関係を築くことは基より、引き続き、保護者には集団の中での子どもの経験や育ちを強調して伝えていってもらいたい。	B	子どもが主体的であることを意識しながら興味や関心に応じた環境を構成できるように保育を実践していく。 今後も子どもの内面や発達理解を深めていく。
職員の育成・資質向上や運営	職務分担が適切に機能し、子どもたちのために職員がお互いに協働する保育所を構築する。	園務分掌の役割へ積極的な取組と連携	①感染予防衛生管理を適正に行う ②防災について実践の中で、見直し改善を進める	・ほとんどの職員が①手洗い、うがいなどを促す環境を構成する。②保護者にも感染予防に関する協力依頼をする③保育者がうがい・手洗いなど率先してモデルを示す。④感染予防に関する話をする。この4つの指標を意識して保育ができた。 ・取組の成果として保育者に声をかけられなくても子どもが手洗いをするようになったと評価した職員が6割。子どもが手洗いや感染症予防に関する話をするようになったとまで評価した職員は4割だった。 子ども同士で「した？」「こうでー」と伝え合う姿や「ばい菌おらんなった」「ピカピカになった」と保育士に見せに来る姿が見られた。 ・県や市の研修、防災対策課との研修、防災士の研修等に参加し、情報を知り避難バックの中身を検討したり、いろいろな想定で訓練を行った。 園内の消火器の場所、赤電話での通報の仕方、パッケージ型消火器の使い方を再度確認した。保護者には、防災についての便りを発信したり、参観日では、避難訓練の様子を見てもらいカエルのポーズを3分間体験したもらったり、防災士と体験型の研修”皆で知ろう防災について”を実施した。 ・取組の成果は、繰り返し訓練を行う中で、70%の職員が状況を見て、連携を取りながら臨機応変に動けた。 職員の意識は高まっているが、中には訓練ありきで動いていたり、役割にこだわり臨機応変に動くことができなかったこともあった。また、危機管理マニュアルを読み確認することができなかった。 ＜保護者による保育所評価アンケートにより＞ 園内の安全対策(避難訓練など)について十分行われていると感じますか。 ⇒「そう思う」97．8% 「ややそう思う」2.2%の評価であった。	B	保育所でいろいろなことを経験していると感じる。子どもが、衛生面において、これはよいことだと認識をしだすのはとてもよいことだと思う。友達に手洗いしたかを聞ける育ちが見られているのは、継続した保育者や保護者のモデルがよいのだろう。この取組が保育所→幼稚園→小学校と繋がり、自分を守ることとして身につき、習慣になるとよい。 防災や保健管理は継続した見直しや保護者への発信に努めて欲しい。	B	防災や保健管理は、保護者の協力も必要なため家庭の意識も高まっていけるように継続的な発信を取り組む。 危機意識をもち、危機管理マニュアルを定期的に読み合わせ、様々な想定や想定外の訓練など行っていき、訓練を通してその時に必要な行動をとり、身を守る力がつくようにしていく。 次年度は危機管理マニュアルの共有を計画に入れる。
地域に開かれた園づくり	保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。	様々な園行事で保護者と共に歩む保育・教育活動の充実	①保育活動と関連付けた行事の設定 ②通常保育と延長保育の一体的な展開	・①子どもの様子が分かるようなクラス・学年だよりを配布する。(送迎時に子どもの様子を分かりやすく伝える)②日頃の保育から見通しをもって行事を考えていく。③保育所が大切にしていることが伝わる取組や生活などを工夫して知らせる。④各年齢の発達や育ちが分かるように発信する。 この4つの指標を連絡ノート　、便り　、ドキュメント、降所時に伝えるなど意識して行った。 ・成果として③項目まで取組むことができた職員が6割　④項目まで取組むことができた職員が4割だった。 ＜保護者による保育所評価アンケートより＞ 保育所の行事(夏祭り・運動会・発表会・参観日など)は子どもたちに合った取り組みがなされ、お子さんの保育所での様子を知ったり、成長を感じたりできるものになっていますか。 ⇒「そう思う」 95.5%「ややそう思う」4.5%の高評価だった。 参観日での懇談会やおたより、ドキュメント、連絡帳を通して保育や子どもさんの様子など、保育所が大切にしていることが伝わりますか。 ⇒「そう思う」89．9%「ややそう思う」10.2%の評価であった。 ・①子どもが体を休めたり、くつろいだりできる空間や場所を整える。②日中の保育者と延長保育の担当と引き継ぎを行う。③延長保育に適した遊びを準備して環境を整えることができた。④延長保育での子どもの様子や取組の便りは、0,1歳児だより1回、2，3歳だより1回発信した。降所時に子どもの様子を伝える事は、時間帯によっては難しいこともあった。 ＜保護者による保育所評価アンケートより＞ 子どもの気持ちに寄り添った保育がなされ、保育所で安心してのびのびと過ごしていると感じられますか。 ⇒「そう思う」92%「ややそう思う」6.8% 「あまりそう思わない」1.1%の評価であった。	B	保護者への発信に、4つの取組を実践できた職員は、意識が高いと思う。 おたよりも楽しそうでよい。保護者にも評価がもらえている。 連絡帳は、書けない事もあると思うので、事前にそのことを保護者に伝えておくとよい。 便りは、人が読むとき写真が目に入る。最初の3行で何を書かれているかを把握して読み進めていくので、忙しい中、見てもらう工夫(レイアウトを区切る、色分け、字体の大きさなど)は必要である。	B	保護者の安心や職員の質の向上に繋がるように伝わるような内容を考え、継続して取り組んでいく。

A:十分満足(90%以上)　B:おおむね満足(70～90%)　C:もう少し努力すべき(50～70%以上)　D:大いに努力が必要(50%以下)